第３回香芝市立地適正化計画策定委員会要約会議録

1　招集年月日　　　令和６年２月６日（火）午後２時

2　招集場所　　　　香芝市役所　会議室棟　第６会議室

3　議事

1)「香芝市立地適正化計画」の(素案)について

「香芝市立地適正化計画」の(素案)について、次のような質問や意見、回答があった。

質問	前回の委員会から、居住誘導区域の区域境界について、法線・地形地物等による調整が行われたが、市街化区域に対する居住誘導区域の割合が変更されたことにより人口密度も上がっている。 こういった大きな区域の変更は今後もなされるのか。
回答	区域境界において道路を含めるか否か、敷地間での調整等による多少の面積の増減はあるが、大きな区域の調整は今回が最後となる。
質問	6 ページで日本の地域別将来推計人口にならって令和 17 年の居住誘導区域の人口密度を示しているのに対し、26 ページの目標値ではそれより高い数値となっている。これは誘導区域への居住誘導を進めることにより、日本の地域別将来推計人口の予想よりも人口密度を高めていく、といった解釈でいいのか。
回答	そうである。
質問	香芝市人口ビジョン推計について、オリジナルの算出方法で出されていることはいいが、根拠となる数値の因子が少なく、この数値を使用することに問題はないか。
回答	総合計画は立地適正化計画の上位計画であるため、こちらの人口推計に基づいて進めていきたい。 総合計画の見直しや、およそ５年ごとに立地適正化計画も見直すことになっているので、新しい分析等が出てきた際には、それを用いて検討を行っていく。
質問	傾斜地や駅へのアクセス性の低い地域の高齢者等のために、デマンド交通等の推進や、運転手の減少対策などの細かな施策も盛り込む必要があるのではないか。 施策等を盛り込むことにより、地域公共交通サービスのカバー率の目標値は上げられるのではないのか。
回答	担当部局とも協議を重ねたが、交通ネットワークに関して新しい施策などを積極的に位置付けていくことは難しい状況である。 また、現状のサービスを維持していくことを最大限の目標として目標値を設定している。

質問	香芝市には古い住宅が多くみられ、耐震化対策がなされていないように感じる。現状の耐震化率 90%という数値に疑問を感じるが、この数値の算定根拠は正しいのか。
回答	数値の算出については、国の統計調査に基づいて調査された結果を使用している。 昭和 56 年以降に建てられた建物もしくはそれ以前に建てられた建物でも、耐震改修などの耐震化対策済みの場合、耐震化率の数値に含まれてくる。
質問	ため池について防災の機能を有しているというのは分かるが、利便性の高い場所にあるため池は減らしていくといった市の計画はないのか。 また、ため池から住宅地やその他に利用されたといったケースはどのくらいあるのか。
回答	ため池の土地の利活用という点について、JR 五位堂駅周辺は都市機能誘導区域や近隣商業地域として設定しており、都市計画として前向きに考えていきたいが、様々な権利関係もあるので精査が必要である。 また、ため池には治水という考え方があり、本市では治水対策としてこれまで少しずつ整備を進めてきた経緯がある。防災と土地利用という観点を踏まえて前向きに検討していきたい。 ため池を住宅地などに利用した詳細な件数はこの場では把握していないが、住宅開発や一部を埋め立てて公園として整備したケースなどがある。
意見	耐震化率の数値に関する説明がない。現況などに記載しておくとわかりやすいのではないか。
質問	防災の観点から、耐震化されていない建物などを把握しておくことも必要である。そういった観点を防災の部分に加えてもいいのではないか。
回答	地震のゆれやすさマップ等の項目において、文言整理するなどの方法を検討したい。
意見	本日の意見を計画書に反映させたうえで、パブリックコメントを実施すること。